

第1章 産業連関表について

第1節 産業連関表のあらまし

1 産業連関表とは

県内には多くの産業があり、様々な商品を生産しています。産業が商品(財・サービス)を生産する場合、他の産業が生産したいろいろな商品を原材料として使用しています。また、そうして生産された商品も別の産業においては、原材料として使用されることもあります。このように、商品が作られる過程では、いろいろな産業・消費者が、お互いに様々な取引を行っています。ある産業に需要が生じると、その影響は、水面に投げ込まれた石が波紋を広げていくように、直接的にあるいは間接的に他の産業に及んでいきます。

例えば、乗用車を生産するためには、タイヤや窓ガラス、ボディ、バッテリー、エアコンなど多くの製品が原材料として必要です。原材料を得るためには、ほかの産業から購入したり、県外(外国も含む)から移輸入しなくてはなりません。

このように、乗用車を作るにもさまざまな産業が取引関係を持っており、乗用車の需要が増加すると、関連産業の需要も増加することになり、逆に需要が減少すると、関連産業の需要も減少することになります。

つまり、産業間の取引関係の中で、ある産業の需要の増減は、その産業だけでなく、関連する産業にも直接・間接の影響を与えることになります。

また、各産業の生産活動は、消費者の最終的な需要に影響を与えるとともに、そこで働く従業員の賃金にも影響を与えます。さらに、消費者でもある従業員の賃金から新たな需要が生み出されるなど、経済活動は、独立したものではなく、産業相互間、あるいは産業と家計などの間で密接に結びつき、互いに影響を及ぼし合っています。

産業連関表とは、一定の地域(国・県など)で、一定期間内(通常1年間)に行われた、上記のような商品の取引を、一覧表の形に取りまとめたものです。

2 産業連関表の利用

産業連関表を見ることで、**県経済の規模と産業の相互依存関係**が明らかになります。また、産業連関表から得ることができる各種係数を使用することで、諸施策・イベント等の経済波及効果測定が可能になります。

主な利用方法は次のとおりです。

(1)経済構造の分析

産業連関表には、各財・サービスの県内生産額、需要先別販売額(中間需要・消費・投資・移輸出等)及び費用構成(中間投入・雇用者所得・営業余剰・資本減耗引当・間接税等)が各産業部門ごとに詳細に記述されています。これらの計数により、例えば産業別投入構造や雇用者所得比率、粗付加価値比率、各最終需要項目別の商品構成や商品別の輸移出入比率など、本県の経済構造を読み取ることが出来ます。

(2)経済の予測

産業連関表から得られる投入係数、逆行列係数などを利用することにより、投資や移輸出の増加などの最終需要の変化が、各財・サービスの生産や移輸入にどのような影響を及ぼすかを定量的に明らかにすることができます。これは、経済見通しや経済に関する各種計画の作成などの際に広く使われる方法です。

(3)特定政策の経済効果測定

経済の予測と同様に、最終需要と財・サービスの生産水準などとの関係を利用して、特定の経済政策が各産業部門にどのような影響をもたらすかを分析することが出来ます。財政支出の波及効果の測定、公共投資の経済効果の測定などがあります。

第2節 産業連関表のしくみ

1 産業連関表の構成

産業連関表は、大きく分けて3つの部分から構成されています。

(1)内生部門

「内生部門」とは、各産業が商品を生産するために購入する原材料などの財・サービスの取引関係を表しています。(図1のア)

(2)粗付加価値部門

「粗付加価値部門」は、各産業の生産活動により新たに生み出された価値の総額を表しています。(図1のイ)

(3)最終需要部門

「最終需要部門」は、家計や企業による消費や投資などです。(図1のウ)

2 産業連関表のみかた

産業連関表は、2つの側面から読むことができます。

(1)タテ方向

産業連関表をタテ方向の「列」に沿ってみると、ある産業(列部門)が財・サービスを生産するのに必要な原材料などを、どの産業(各行部門)からどれだけ買ったか(中間投入といいます)、さらに生産活動をするうえでの賃金(雇用者所得)や利潤(営業余剰)など(粗付加価値といいます)が分かります。つまり、各産業が財・サービスを生産するのに要した費用の構成が分かります。

この関係を式で表すと、次のようになります。

タテ方向のバランス式 生産額 = 中間投入 + 粗付加価値
--

(2)ヨコ方向

産業連関表をヨコ方向の「行」に沿って見ると、ある産業部門(行部門)の生産物がどの産業部門(各列部門)にどれだけ売ったか(中間需要といいます)、県内の消費や投資、県外(外国も含む)の需要に対してどれだけ生産物を売ったか(移輸出)(これらを最終需要といいます)、逆に県外(外国も含む)からどれだけ買ったか(移輸入)が分かります。つまり、その産業部門の販路構成を知ることが出来ます。

この関係を式で表すと、次のようになります。

<p>ヨコ方向のバランス式</p> <p>生産額 = 中間需要 + 最終需要 - 移輸入</p>
--

さらに、産業連関表の特徴として、タテ方向の合計とヨコ方向の合計は**必ず一致**します。

この関係を式で表すと、次のようになります。

<p>全体のバランス式</p> <p>生産額 = タテ方向の合計 = ヨコ方向の合計</p>
--

図1 産業連関表の構成

<p>内生部門 (中間生産物の取引) ア</p>	<p>最終需要部門 ウ</p>	<p>合計 (生産額)</p>
<p>粗付加価値部門 イ</p>		
<p>合計(生産額)</p>		

図2 産業連関表のみかた

需要部門 (買い手)		中間需要					最終需要			移 輸 入	生 産 額
		1 農 林 水 産 業	2 鉱 業	3 製 造 業	・	・	計	消 費	投 資		
供給部門 (売り手)	計						A		B	C	A+B-C
	1 農林水産業	<p>行 →</p> <p>生産物の販売先(産出)</p> <p>↓</p> <p>列</p>									
2 鉱業											
3 製造業											
・											
・											
中間投入	計 D										
粗付加価値	家計外消費支出										
	雇用者所得										
	営業余剰										
	資本減耗引当										
	間接税(控除)補助金										
計 E											
生産額	D+E										